

樹 姉 ば よ り

No.121
2014.11

慈悲喜捨

秋は去ぬ 風に木の葉は

散りはてて
山さびしかる 冬は来にけり

『続古今集』源 実朝

秋は去ってしまつた。木の葉は風に散り尽くし、山が寂しい様をあらわす冬がやって来た。

今月七日は立冬。冬の始まりです。陽の光が弱まり、冬枯れの景色が目立つようになります。学校では文化祭などが行われる時期です。隔年で実施している本校の文化祭ですが、校舎建設の関係で今年も体育祭を行い、文化祭「月影祭」は来年に予定されています。

この時期は寒く、野山の彩りもなくなる前で空気は湿り気がなく、吹き抜けて行く風は秋から冬へ時が流れたような風情があります。月も冬の冷たい光よりも澄んで温かく感じられ、えもいわれぬ美しさです。

月影の
至らぬ里はなけれども
眺むる人の心にぞすむ

法然上人 御歌

この御歌は仏の慈悲を歌ったものではあるが、凡人には月を眺めて美しいと風情を味わうことくらいしかできない。

月影は
同じ光の秋の夜を

分きて見ゆるは 心なりけり

『後撰集』詠み人知らず

「立志館」(新校舎棟名)での授業が開始された。十月十八日から引越しが始まり、防音設備や視聴覚器機が備わつた第一・第二音楽室は、二十日から授業で使用し始めた。第二コンピュータ室と、今まで工事現場から一番近く工事音に悩まされていた男子部一年生は二十一日に、セミナーセンターで学習していたSスクラスの三年生は二十日までに移動が完了し、同じく授業が始まつた。

一階の調理室・被服室・保健室・カウンセラー室には、新しい設備機器などが入り、備品の移動を行い、今月からの使用を目指している。また、洗濯などが出来る流しや作品・用具を保管する棚を備え、美術や書道などの授業が行える四階の芸術室には新しい机も整備された。また、遅れていた二・三年生の机・椅子も二十日に全て入れ替え、少し大きくなった新しい机・椅子での学習が始まつた。外構や屋上の植栽を施した庭園工事はこれからだが、記念館・立志館・正道館が一本に繋がりに、新しい環境での生活が始まつた。

教頭 尾内 正彰

樹徳高等学校正門のアカシヤ



「いのちを考える」 (その一)

樹徳中学校・高等学校校長

野口 秀樹



先月号でお知らせしたが
立志館が完成し、使用が開
始されました。生徒達が喜
んで大事に使ってくれるこ
とを願っております。

『月刊教職研修 十一月
号』で、「検証『命の教育』
という特集が組まれており
ました。私も樹徳の教育の
根底に「私のいのち」を置
いております。ですから自
然と記事に目が留まり、早
速読んだものの、観念的な
ものであり、私の求めてい
るものとは異なりました。

そこで、私が樹徳で生徒
達と考えてきた「いのち」
についてお話しします。

皆さんは今、「感謝と喜
び」を持って生きておりま
すか。仏教では、人間に生
まれることは大変なことだ
と説いています。そして輪
廻する世界では動物に生ま

れる可能性もあるとも説い
ています。

皆さんは人間に生まれた
ことを当たり前と考えてい
ますか。それとも、そのこ
とに感謝していますか。中
立進化論を唱える遺伝子学
者の木村資生氏は、地球上
に生命を持ったものとして
生まれる確率について、次
のように紹介しています。

人間が約七十億人、昆虫
雑草の数は人間の比ではあ
りませんが、これらの命も
含めて、この地球上にいの
ちを持ったものとして生ま
れる確率は、一億円の宝く
じを十萬回連続で当選した
確率だということです。皆さ
んは想像できませんか、人間
に生まれる確率は奇跡中の
奇跡だということ。この
驚きの確率で誕生したの
が、「あなたのいのち」です。
もう一度申しあげます。「感
謝と喜びで今、生きていま
すか」。

次に、私のいのちの源を
たどります。少しスケール
の大きな話になりますが、
どうぞおつきあい下さい。

百三十六億年前にビック
バンによって宇宙が始ま
り、四十六億年前に地球が
誕生したといわれておりま
す。この時、地球は火の玉
だったそうです。これが時

間をかけて冷えていったの
ですが、ありがたいことに
火星のように冷えすぎな
かった。火星の気温は平均
でマイナス六十度。一方、
地球の気候には二酸化炭素
が含まれており、それが産
着となつて今の環境が保た
れたと言います。

そして火の玉が徐々に冷
えたことよつて蒸気が水
となり、百年以上雨が降り
注いで海が生まれた。この
海が、私のいのちを生み出
す重要な要素なのです。

そして四十億年前に一つ
のいのちが誕生した。単細
胞のバクテリアのようなも
だったのでしょうか。この海
のことを「いのちのスープ」
と呼ぶ詩人もいます。そし
てそのいのちがその後一度
も途絶えたことがありませ
ん。そのいのちは三十六億
年間海にいて、いわゆる古
代魚となり、その後陸に上
がります。

最初に植物が上がり、光
合成で空気バランスを安定
させてくれた。そして両生
類が出現します。エラ呼吸
から肺呼吸へ。そして爬虫
類になり、ほ乳類になり、
原始人類が生まれて四百万
年、ホモ・サピエンスが登
場してからでも三千万年、
と言われています。

このいのちが多く先の
祖、そして両親とつながり、
ようやく私の番となつたの
です。単純に計算して両親
から先祖を十五代さかのぼ
ると私の先祖は六万五千五
百三十六人。すごい数です。
この中の、もしも一人でも
この世に存在していなかつ
たら私は誕生しなかつた。
私の代わりに別の方がこの
世に生を受けたことになり
ます。これが、いのちの不
思議なのです。

私達が生きている今のよ
うに豊かな時代は、過去に
はありませんでした。その
中でも親たちは自分の食べ
るものを子どもに与えて、
次の世代へといのちをつな
いできました。それが与え
られた使命のように。考え
方を変えるならば私が生ま
れて来るためにです。

多くの先祖から与えられ
た私のいのち。「不平不満」
を言うためでなく、生きて
いることを感謝し、喜ぶた
めだったと思いませんか。
私は、「喜んで生きる」こ
とを先祖からバトンタッチ
されたと思っています。

だから、年齢には二種類
あります。まずはこの地球
上に私が生を受けてからの
年齢、私の場合は六十一歳
です。もう一つは「いのち

年」、つまり四十億年六十
一歳。これはこの地球上に
生命が誕生したときから今
日まで絶えない生命、長い
氷河期だって耐えてきた生
命の積み重ねです。

私のいのちの授業はここ
までが三分の一。ここから
先がとても楽しくなるので
すが、続きは次回です。い
ずれにしても大切なこの生
命をいのちいっぱい、喜ん
で生きて欲しいのです。

ところがあつた日、星野富
弘さんの詩が目にとまった
のです。「いのちより大切
なもの」——え！ 私は驚
きと共に、詩を読みました。

「いのちより大切なもの」

いのちが一番大切だと

思っていたころ

生きるのが苦しかった

いのちより大切なものが

あると知った日

生きているのが

嬉しかった。

いのちは、やはり大切な
ものです。そして富弘さん
は「生きている」ことを謳
歌しているのではないで
しょうか。

(三十八億年前にいのち誕
生説もありますが、四十億
年を採用しました)

合 掌

考え方を覚えてみたら

それだけで人生が変わります

豆腐の角七縁

かと感じている。

我が家にはフアーブル昆

国語科常勤講師として本校に勤務させて頂き、はや半年が過ぎようとしている。百周年という記念の年に、本校とご縁があったことはまことに有り難きことだ。私は浄土宗ではなく真言宗の僧籍にあるが、我が宗でも阿弥陀如来を西方浄土極楽化主と呼び奉っている。また真言宗中興・興教大師・覚鑿上人という先徳も、阿弥陀如来を本尊の別徳尊として大いに敬つておられる。そうしたことも考えると、仏縁も大いに感じるところである。

さて、今日は読書について述べたい。私は国語科だからでもないが、趣味は読書である。他の趣味として将棋もあるが、基本は読書である。そして、読書とはまことに縁の産物ではない

虫記や世界名作全集、江戸川乱歩といった定番の子ども向けテキストが氾濫していたので、物心ついた頃から本には親しんでいた。中学に上がると、群馬から都内の私立中学へ遠距離通学したため、必然的に電車の車内は読書タイムだった。この頃はティーンズ向け文庫が大いに世に出た時期であり、御多分に漏れず色々読んで読んだ。一般の本屋にその手の文庫はまだ少なく、通学途中の秋葉原で下車し、ラオックスの書籍フロアまで行って求めていた。まだ秋葉原駅前にバスケットコートがあった時代である。今ではライトノベルと呼ばれ一個のジャンルを築いていると思うと隔世の感がある。今も昔も、このジャンルはあまり大人から良い顔をされないが、現代文芸

史として鑑みれば決して無視できない文化である、と個人的には思う。桜庭一樹・橋本紡・有川浩など一般文芸で活躍している作家も増えており、研究しがいもあるだろう。その他、将棋部に所属し始めたのも中学からで、将棋関連の本を読むことも多かった。

また、「図書の家」という図書委員と文芸部を足して二で割ったような部活があり、少し文章を書くようになった。当時の文集をもし誰かが発掘して私の前に持ってきたら、豆腐の角に頭をぶつけて自害を図るかもしれない。

高校時代は将棋部以外に、電子工学研究会といういわゆるパソコン部にも所属していた。殊勝にプログラミングなど勉強してれば今とは違う道もあったかもしれないが、あいにくテキストエディタで駄文を書き散らしていただけだった。ある小論文コンテストで入賞と賞金を頂いたことだけがこの頃の成果かもしれない。まこと非生産的ではあったが、だからこそ青春でもあった。根がいいかげんなせいも、好きなもの

にすぐ影響される性質で、当時は（今でもだ）秋田禎信が好きでよく模倣した文を書いていた。その後、京極夏彦・奈須きのこ・西尾維新といった新伝奇系の作家と出会ってしまった。自分の文体がちゃんぽんになつていくのを自覚したのもこの頃である。

大学では都内に住んだので、神保町古書店街に足を運ぶようになった。囲碁将棋古書専門店があるということで行き始めたが、すぐに神保町全域を徘徊するようになった。また、地下迷宮めいた大学図書館に籠もり古典全集等を濫読していたのも、この時期の思い出だ。卒論の合間の現実逃避であったことは否めないが、この経験がなければ国語教員にならなかつたかもしれない。

さて、つらつらと自身と読書について述べてきたが、まとめよう。本を読むことは前にも述べた通り、縁の産物だ。本との奇跡的な出会いがあり、その向こう側には、本を生み出した作者がいる。時には本の話を通して人と出会うこともある。そして、それ

らを受けて、自分という人間が出来てきた。これが最大のご縁であり、奇跡である。実に、縁とは得難いものだ。生徒の皆さんにも大いに読書をしてほしいと我々国語科教員はしばしば口にする。その根底には、誰もがこういう経験を持っているのだろう。そして、それを生徒に伝えたいという想いがあるのだ。そんなことを思いつつ、私は日々教壇に立たせて頂いている。

（一貫校国語科 藤生義教）



桐生錦町一丁目 盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」 11月予定

(1) 街中ギャラリー ハロウィン写真展示

1日(土)～8日(土)

(2) アートスクール「編み組み教室」

(主催 野村ナナ子さん)

5日(水)～19日(水)

(3) 七草ゼミナール塾 (主催 上野丈雄さん)

25日(火)



ばんば
人間鞍馬リレー
力強さとスタミナが勝敗を分ける



珠算競争リレー
夫そろばんをバトン代わりに、
計算の正しさも大切。



スタートダッシュと諦めない気持ち
女子100m走



チームワークで走り切れ
以和為貴リレー



クラブ対抗リレー
各部のプライドが激突!



クラス対抗リレー
1本のバトンを8人が繋ぐ

「**体育祭**」
今年も盛大に
十月九日、爽やかな秋晴れの空の下で盛大に体育祭が開催されました。
新校舎建設に伴って二年連続となった今回。総合優勝を目指し、熱戦が繰り広げられました。

体育祭 結果

- ◆男子部 
総合優勝 
2年J 1組
第2位
1年J 3組
第3位
2年K・SS組

- ◆女子部 
総合優勝 
2年j 2組
第2位
1年k・ss組
第3位
3年j 1組

**樹徳「プレテスト」に
3,300名余が挑む!**



プレテスト会場《教室》

◇毎年三千名近い生徒を集めて実施される樹徳プレテストが実施され、今年も数多くの中学生がこれに臨みました。百周年を迎えた変革の中、女子の参加がこれまで以上に増えたのが今年の特徴です。
本校の新たな学習環境と校風にこれまで以上に多くの入学者が集うものと、今から期待に胸が膨らみます。

◇記念館・正道館を埋め尽くした生徒たちがテストに臨みました。新年早々に実施される学業奨学生試験を前に、中学生たちは皆、真剣な面もちで現在の自分の限界に挑戦しました。日頃の学習の成果を結実させ、希望に満ちあふれた高校生活を送るための、第一歩です。



プレテスト会場《講堂》

読書感想文 優秀作の紹介

『世界から猫が』

消えたなら』を読んで
三年k組 椎名美咲

「世界から、もし猫が突然消えたとしたら。この世界はどう変化し、僕の人生はどうかわるのだろうか。」

物語はこう始まる。実際、世界はどう変わるのだろうか。私は興味を持った。たとえば、こうして文章を綴っている今も傍らで丸くなっている愛猫が、もし存在しないとしたら、代わりになる何かがあるのか。私が愛猫にご飯をあげている時間やフカフカの頭を撫でている時間は、何に変わるのだろうか。この物語は、普段私たちがあたり前だと思っている物事の意味や価値を考えるきっかけを与えてくれた。

突然現れた悪魔に「明日あなたは死にます」と告げられた主人公は、「世界から何か一つのモノを消せば1日分の命を得られる」という取引をする。彼は、電話・映画・時計と消していく。

私たちがこのような場面に出会うことはない。ましてや悪魔と取引するなんてことはあり得ないだろう。余命わずかと云われれば、気の赴くままに残りの時間を生きるだけ

だ。一人の例外もなく。けれども主人公の前に現れた悪魔はこう言う。「こうしかなかった、ああしたかったというの、ある種の理想であり、なりたいたけれどなれない自分。自分に一番近くて遠い存在。それが悪魔的なものなんじゃないか」と。つまりは、自分自身の後悔だ。そういうものならいくらでも溢れかえっていると思う。私たちは生きていく上で必ず選択をしていかななくてはならない。選ばなかったもの、選べなかったものは常に存在する。そして、選ばれなかったものはいつも選択者を見張っていて、その人が挫折しそうな時に姿を現す。丁度この物語の「悪魔」のように。時には、自身にとつて明らかに重要な選択を迫ってくる。「やるか、やらないか」という選択によって私たちが何かを得たりも失ったりもするのだ。場合によつては、自分の信念すら変わる恐れもある。しかしそれは主人公も「その後悔こそが美しい」と言つたように、決して悪いことではないと思

う。大切なのは、選択した結果の価値を、どこに見出すかではないだろうか。私にも、誤つた選択をして苦しんだ過去がある。それは

中学生の時。私には同じ部活に所属する親友がいた。彼女とは一年生の部活見学の時に知り合ったのだが、妙に気があつた。以前から交際していたわけではなく、趣味が同じだったわけでもない。けれども彼女といふことは不思議なくらい自然で、私たちはいつも一緒に行動していた。私は彼女こそ一番の親友だと思つていて、彼女も、私のことを親友と思つてくれていた。うと信じていた。ところが、最後の部活の発表会が終わつた中学三年生の秋、私は彼女と仲違いした。一年生の頃からずっと続いていた親友の関係を、私は、そこで断ち切つてしまったのだ。今思えば原因は大したことではなく、どう考えてみても仲直りは可能だった。あの時、きちんと彼女と話し合つていれば、今も親友でいられたはずなのに。

でもその時の私にはできなかった。怒りと悲しみで冷静な判断力を失い、本当に望んでいた答えを選ぶことができなかったのだ。選べなかったものは、今でもしばしば私の心に現れる。そして、あつという間に私を後悔の深みに陥れてしまう。まさに悪魔だ。悪魔との取引によって世界からモノを消した主人公は、命を得ることはできたが、大切な何かを失つてしまった。私も同じように、自分の一時的な感情を抑えきれずに、誤つ

た選択をし、大切なものを失つた。それがなければ生きられないというものではないかもしれないが、そう言えるくらい大切なものを。けれども、その代わりに知ることができたものもある。この話の主人公の場合は、消してしまつたモノの価値であり、私の場合、彼女と過ごした時間の価値だ。他愛もない話ばかりしていただけたら、私にとつてどれほど大きなものであつたかが、今は痛いほどよく分かる。失つてみなければ分

かなければ分たはずの公が、最後に自分の命と引き換えに、自分の大事な家族を消すことを選べなかつたように、選択の失敗は、本当に大切なものに気づく可能性を持つてい

るだろう。自分の選択を後悔することも必ずまたあるだろう。私は、その後悔を「黒歴史」としてではなく、記憶に残しておきたいと思う。嫌な思い出も、それは良い思い出に繋がる可能性を持っている。残つたものの価値を決めるのは私自身なのだ。そうであるならば、私は、過去も未来も大事にしていきたい。

(川村元気著・マガジンハウス刊)

平成26年度夏休み課題作品入選者

	書道の部		絵画の部		感想文の部	
1学年	金賞	j3組 高山 怜美	J3組	川村 太朗	J2組	加藤 太樹
	銀賞	k組 新保 遥加	4年1組	大橋 留美寧	j1組	熊田 真紀
		j2組 高山 奈美			4年1組	八木 祥太郎
	銅賞	j3組 勝山 知夏	(該当者なし)		S組	野口 拓海
SS組 中野 雄斗				4年2組	木村 紗知	
j1組 大塚 心						
2学年	金賞	(該当者なし)		k組	吉田 麻耶	(該当者なし)
	銀賞	5年1組 柴塚 健太	j1組	落田 珠生	5年2組	櫻井 絵莉香
		5年1組 明瀬 里穂				
	銅賞	k組 相場 晶子	K組	三枝 優弥	k組	河内 萌々子
k組 黒須 朱莉				J1組	清水 哲哉	
j1組 山内 綾夏				S組	木村 直	
3学年	金賞	k組 長谷川 早紀	k組	椎名 美咲	k組	椎名 美咲
	銀賞	6年2組 田口 大輔	k組	長谷川 早紀	ss組	今泉 彩香
		k組 望月 由佳			k組	富澤 雅
	銅賞	J3組 味戸 将太	k組	福島 成実	6年2組	板橋 奈央
		6年1組 岩瀬 瑞季			(該当者なし)	
		j3組 内門 紗矢香				

一貫校 中学校 だより

保健教育講演会 アスリートフードマイスター 菊田 恵理氏



一〇月二日(木)に保健教育講演会が実施されました。今年度は「食育」をテーマにした講演ということ、アスリートフードマイスターの菊田恵理氏にお越し頂きました。アスリートフードマイスターとは、スポーツ選手を対象にそれぞれの競技に合わせた確かなからだ作りの為の食生活をアドバイザーする職業のことです。今回は、食事サポ



トを担当している中原太陽選手とともに対談形式で講演して下さいました。食事がもたらす身体への効用や、中原選手の試合動画の上映、試合前の食生活など、スポーツと関連させて食の重要性を生徒にわかりやすく解説して下さいました。生徒も食とスポーツ



の関連性に興味を抱き、質問も多く挙がりました。これを機に自分の体内に入る「食」に更にこだわりを持って食生活を送ってほしいと思います。

少年の主張群馬県大会 最優秀賞 受賞

桐生市大会、東毛地区大会と勝ち進み、開校以来初めてとなる県大会での最優秀賞を受賞しました。『心の壁』と題した主張の内容は、実体験に基づき、「障がいには不便ではあるけれど、不幸ではない」という説得力のある、多くの聴衆の心に残るものでした。内容だけでなく、時間が経っても消えない演説力を磨いたからこそ、今回の受賞に至ったのでしょう。群馬県大会を終えての感想を掲載致します。

三年 河野 葉月
私は、九月に前橋市で行われた「少年の主張群馬県大会」に出場しました。大会の何日も前から練習をしてきましたが、いざ、県大

会の会場に着き、ホールの様子や県内の代表者の人たちを見ると、胸がどきどきしてきて、とても緊張しました。

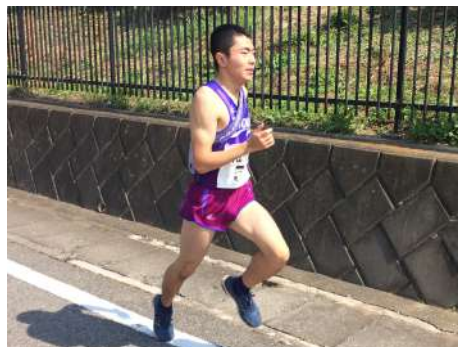
県大会の発表が始まると、やはり、県大会の出場者はみんな堂々とした態度で表現力豊かに発表をされていきました。内容もとても素晴らしく、深く胸に訴えるものばかりでした。私もすっかり自分の考えを伝えよう、という気持ちで舞台にあがりました。

結果はまさかの最優秀賞で、とても驚きました。最優秀賞をとれるとは、夢にも思っていなかったのですが、本当に嬉しかったです。そして、自分の考えを多くの人に理解してもらえて、自分の自信に繋がりました。この出来事は私にとっても、一生忘れられない出来事になると思います。これまでご指導頂いた先生方、頑張れ！と応援してくれた家族や友達にとっても感謝しています。



桐生市駅伝大会 祝 県大会出場

十月十一日、陸上部を中心に出場した桐生市駅伝大会で第五位に入賞し、県大会出場を決めました。更なる活躍に期待が高まります。



平成 27 年度 樹徳中学校 第 1 期入学試験

試験日 11月15日(土)
出願期間 11月5日(水)～
11月7日(金)
試験科目 国語・算数・面接

お問い合わせは 0277-45-2257 まで

幼稚園だより

海外研修に参加して

―私学振興会海外研修報告―

アジアの幼児教育

十月十二日（日）からの五泊六日、平成二十六年年度私学振興会海外研修へ参加させていただきました。前日に行われた幼稚園の運動会が無事に終わった安心感と達成感を胸に、これから向かう未知なる体験への期待を抱いての出発でした。

訪問国は、教育の八割が文系であったものを、近い将来には五割を工学系教育へと移行しているマレーシアと、OECD生徒の学習



「Putrajaya 中等学校 8」と、私立の「Nexus international school」の一校を視察しました。「Putrajaya 中等学校 8」では、先生を中心として生徒が円陣を組み、穏やかな雰囲気の中で授業の様子や、日本語教育が熱心に行われていること、廊下や教室のあちらこちらに日本語のプリントやパネルなどがたくさん張られていたことが印象的でした。「Nexus international school」は、三歳から十八歳までが通う一貫校で、日本人が八名在

到達度調査（PISA）ランキングにおいて、数学・読解力・科学の三分野すべて上位三位以内というシンガポールです。

マレーシアでは、公立の「Putrajaya 中等学校 8」と、私立の「Nexus international school」の一校を視察しました。「Putrajaya 中等学校 8」では、先生を中心として生徒が円陣を組み、穏やかな雰囲気の中で授業の様子や、日本語教育が熱心に行われていること、廊下や教室のあちらこちらに日本語のプリントやパネルなどがたくさん張られていたことが印象的でした。「Nexus international school」は、三歳から十八歳までが通う一貫校で、日本人が八名在

籍しているとのことで、校庭やプール、図書館や寮など全てにおいて恵まれており、生徒たちが授業において積極的に学び、自信を持って堂々と発言していることに感心しました。

教育先進国といわれているシンガポールでは、幼稚園「The Little Skool」と、シンガポール政府が設立したというエンジニアリングスクール（専門学校）の「Temasek Polytechnic」を訪ねました。今回、一番楽しみにしていた「The Little Skool」では、樹徳幼稚園と重ね合わせて思うことも多々あり、楽しみながら興味深く視察しました。シンガポールには十七カ所の幼稚園があり、ここでは唯一日本語教育を取り入れているとのこと、日本人教師が一名いました。

The Little Skool にて



日本と同じ教材を用いていた、保育内容で共通していることがあったりと、先生方との会話も盛り上がりましたが、視察を終えて、教室や園庭の広さ、クレパス・ハサミなどの教材を個人で所有できる日本（樹徳）のことを考えると、とても恵まれていることに気付きました。

環境に感謝いたしました。

ここでは①子どもたち一人ひとりの能力を最大限に引き出せるように②保護者との連携を大切に③子どもたちが安心できる居場所であるように、などを心がけていると聞きました。これは樹徳幼稚園でもいつも話し合っていることで、どの国でも幼児教育は共通することが多く、改めて「社会性を身に付ける第一歩」である幼児教育の重要性を痛感しました。そして、遊んでいる子どもたちを見ながら、「樹徳幼稚園では今頃何をしているかな？ お給食の用意はきちんとできたかな？」など、時計を見

ながら時差により一時間先を行く幼稚園の様子を思い浮かべておりました。

今回の海外研修を通して、多くの刺激を受け、異なる角度から物事を見ることの大切さなどを、今後の教育に生かしていきたいと思えます。素晴らしい経験とチャンスを与えてくださった野口理事長をはじめ、忙しい毎日の中で励まし送り出してくださった、園長先生や職員の皆様により厚くお礼申し上げます。

樹徳幼稚園 主任 桑原 江美子

入園願書受付中

樹徳幼稚園にて、入園願書を受け付けています。

◎受付時間

平日 八時三十分～十八時

◎募集人員

・満三歳児 一〇名

・年少 四〇名

・年中、年長 若干名

●定員になり次第、入園受付を終了します。

●平日はいつでも見学できます。まずはお電話ください。職員一同、お待ちしております。

電話 0277 (53) 5571

11月(正定)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一貫校	幼稚園
1	土	月影杯(剣道) 漢字検定② 県高校総合文化祭開会式	音楽部・ダンス部老人福祉施設かがやき訪問	
2	日			
3	月	文化の日 月影杯(卓球・柔道)	文化の日	文化の日 きもの児童画展表彰式
4	火		頭髪服装指導	母の会「教養講座」研究委員会
5	水	マイトリー基金拠金日	中学校入試願書受付(～7日)	火災避難訓練 英語(全) 文字・数(年長)
6	木		3年イギリス語学研修(～12日)	体育(全) 文字・数(年中)
7	金			
8	土	職員出勤日 SS組入試説明会 1・2年進研模試 1・2年学研模試 3年駿台・ベネッセマーク模試		
9	日	ペン字検定② 英語検定②二次		秋季全国火災予防運動(～15日)
10	月	男女合同朝礼	お役に立とう週間④(～16日) あいさつ運動	10・11月誕生会 教育実習(～21日)
11	火	珠算競技(～14日)		さつまいも掘り
12	水	大掃除		英語(全) 文字・数(年長)
13	木		桐生市音楽発表会	体育(全) 文字・数(年中)
14	金	交通安全マナーアップ運動③	交通安全マナーアップ運動	七五三お祝い
15	土		中学校第一期入学試験	
16	日	日商簿記検定②		さつまいも収穫祭(希望者) 桐生市みどり市よい歯の表彰式
17	月	LHR 修学旅行事前指導①(1～2時限) 漢字練習開始	あいさつ運動 5年三者面談(～20日) 入試合格発表	リズム(全)
18	火	期末試験(～21日)	高校期末試験(～21日) 計算オリンピック⑩	やさしい税金教室 設置者・園長研修会
19	水			お茶のお稽古⑤(年長) 英語(全) 文字・数(年長)
20	木			体育(全) 文字・数(年中)
21	金	修学旅行事前指導②(5～6時限)		年中保護者園内清掃
22	土	3年河合塾センタープレ試験(～24日)		
23	日	勤労感謝の日 ビジネス文書実務検定	勤労感謝の日	勤労感謝の日
24	月	振替休日		
25	火		早朝自主学習(～12月5日)	リズム(全)
26	水	修学旅行直前指導(4時限授業)		年少保育参観日 英語(全) 文字・数(年長)
27	木	2年修学旅行(～12月1日)	5年修学旅行(～12月1日)	年中保育参観日 体育(全) 文字・数(年中)
28	金	出欠統計提出 女子制服アフターサービス		年長保育参観日
29	土			
30	日			

※ 1日は高等学校・一貫校・幼稚園の校内安全点検日です。また、5日は授業料・保育料納入日です。



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL. 0277-45-2258 Fax. 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL. 0277-45-2257 Fax. 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL. 0277-53-5571 Fax. 0277-53-5572

平成26年に、明照学園は
創立100周年を迎えました

E-mail office@po.jutoku.ed.jp

URL http://www.jutoku.ed.jp/

発行責任者 野口 秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく